

古今一如

— 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》だより —

ここんいちによ 第3号

発行日 平成21年3月27日
編集・発行 糸魚川歴史民俗資料館
〒941-0056 糸魚川市一の宮1-2-2
TEL・FAX 025-552-7471
URL <http://www.city.itoigawa.niigata.jp/>
E-mail bunka@city.itoigawa.niigata.jp

過渡期を乗り切るために

館長 山崎 弘易

平成20年度は、「良寛生誕250年」「木村秋雨没後20年」という節目を記念する展覧会を開き、また、「糸魚川市の文化財展」開催、『相馬御風宛書簡集Ⅲ』刊行などを行いました。就任一年目ということもあって、その対応に追われる日々でしたが、常に「これからの資料館はどうあるべきか」を考え、課題と事業を整理しながら、当館の運営を進めてきました。

まず課題に挙げられるのは「入館者の減少」です。近年は文化芸術への関心が薄れつつあり、博物館や美術館の入館者数は全国的に減少する傾向が強く、残念ながら当館も同様となっています。これまでの活動は、資料の保存と調査研究、展覧会の開催、図録等の書籍販売などですが、これらは多くの人達から活用されて効果を得られるものです。これからは、従来の事業をより深めていくと同時に、移動展や出前講座など館外における活動にも力を入れていきます。

次に「御風顕彰」です。相馬御風は、自然主義文学を代表する作家として、口語自由詩の先駆者として、さらに良寛研究の第一人者として日本近代文学の歴史にその名を刻みました。糸魚川から100年に一人出るかどうかの逸材といっても過言ではありません。この御風を中心とする郷土の偉人たちの顕彰を進め、教育・

文化の向上、観光の振興に生かしていきたいと考えています。もちろん、これまでも官民が協力してさまざまな事業を展開してきましたが、関心のある人達の高齢化が進む今、同じ手法をとることは難しくなってきました。まず第一歩として、より多くの人々から知ってもらうこと、特に将来を担う「若い世代への周知」がキーワードと考えています。

三つめは「連携」です。糸魚川市では現在、地質や自然、文化、産業など固有の優れた地域資源を生かした「世界ジオパーク」の認定を目指しています。また、平成26年には北陸新幹線開通というチャンスを抑えています。これを機会に各施設の連携を深め、民間団体や市民のみなさんとも協力しながら、市全体の魅力と誘客力を強めていく必要があります。

ほかにも課題は山積していますが、この厳しい時代を乗り切るためには、今までの発想を「チェンジ(転換)」する必要があると思います。もちろん、情報発信や財源確保など基本的な部分もおろそかにはできません。少ない経費で大きな効果を得るためには創意工夫も凝らさねばなりません。でも、一番大切なのは「考えるよりも、まずは動いてみる」ということです。やってみて不都合があれば改善していけばいいのです。

今後も「チャレンジ精神」を忘れずに、市民文化の醸成とさらなる発展に貢献できるように積極的な取り組みを進めていきたいと考えています。

平成20年度の主な事業

【展覧会】

◇良寛生誕250年展

第一部「良寛遺墨展」(平成19年度)

(平成19・12・1～平成20・2・24)

第二部「良寛周辺の人々」

(平成20・2・26～5・18)

第三部「相馬御風の良寛研究」

(平成20・5・20～平成21・3・15)

◇糸魚川市の文化財展

(平成20・7・11～8・31)

◇移動展覧会「相馬御風展」

青海会場(平成20・7・29～8・11)

能生会場(平成20・8・18～29)

◇秋季企画展「小川未明と相馬御風」

(平成20・10・10～11・16)

◇木村秋雨没後20年展

第一部「秋雨の生涯と収集資料」

(平成20・10・10～11・16)

第二部「秋雨の書と心」

(平成20・11・21～平成21・3・15)

◇御風紹介パネルの掲示

(平成20・12・1、南能生小学校・下早川小学校・青海小学校)

【書籍の発行】

◇相馬御風宛書簡集Ⅲ(平成21・3)

※事業の詳しい内容は、6ページからの「事業報告」をご覧ください。